

## 8/21 テモテへの手紙第二 3 章 14 節-4 章 5 節「時が良くても悪くても」

小池 宏明 牧師

テモテは、リステラ（今のトルコ共和国中央部）出身で、キリスト者であるユダヤ人の母とギリシア人の父の間に生まれた。父は未信者だったと思われる。ユダヤ人の女性とギリシア人の男性が出会って結婚したことは、様々な葛藤や悩み、挫折があった可能性がある。しかし、テモテはキリストの弟子として成長して、リステラだけでなく隣り町のイコニオンでも評判の良い人になっていた。主なる神様は、生まれや育ちに関係なく、御心のままに、一人ひとりの賜物を活かして用いて下さるお方なのだ。第二回目の伝道旅行の時にパウロは、二十歳前後のテモテが主の器であることを見抜いて、伝道のために連れて行くことにした。それから十数年後、テモテはパウロの同労者あるいは代理人として大きく用いられるまでに成長した。

### \*テモテが直面している課題とパウロの励まし

そんなテモテが、エペソの教会で奉仕していた時、大きな苦難に直面していた。それは、教会内部から間違った教えを伝える偽教師たちが多く出てきたからだ。パウロはテモテのために夜も昼も熱心に祈った。それは、テモテの信仰の確信が弱っていたこと、臆病になっていたことなどを知ったからだ。パウロは、テモテが抱えている課題解決のために神のことばである聖書の土台に堅く留まり、神の知恵と教えと戒めをしっかりと受け止めるように勧めた。

今も、私たちは、テモテと同じように真理からそれて行き易い偽りの時代を生きている。耳あたりの良いことだけを聞いて、難しいことや厳しいことには耳を傾けない傾向が強い時代である。

### \*祈られ励まされながら歩む

私たちもテモテのように、執り成し祈られ、励ましを受けないと、今の時代の中で、よき証し人として生きることができない。私たちはキリストの弟子としての揺ぎ無い立場にあるが、時として、弱く、確信が揺らぎ、臆病になってしまう。それでも、多くの執り成しに支えられ、兄弟姉妹に励まされ、時には戒めを受けながら、信仰を全うしたい。

主の御ことば、聖書が、私たち一人ひとりに与えられて、いつでも、どこでも、御声を聴くことができる幸いを感謝しよう。そして、主にある兄弟姉妹、神の家族が与えられていることを心から喜び感謝しよう。さらに、常に励ましを受けて、戒めを受けていかないと、信仰を全うできない者であると自覚して謙って歩もう。

